

本号の特集は、「STOP！脊椎脊髄外科における放射線被曝」である。放射線科医として、また現在の勤務先で放射線被曝を管理する側として、興味深く各原稿を拝見した。放射線被曝の現状や具体的な放射線障害について、あるいはMRIや超音波を用いた被曝を伴わない代替の手技について、さまざまな検討と工夫があり、あらためて診療に伴う放射線被曝に関して考えるよい特集になっていると思う。

放射線の扱いに関して難しいのは、匂いも色もなく、かつ放射線被曝の障害が後から起こり得る点にあると思う。日常的によく接する危険物であるガソリンは、JIS規格で人工的に着色することが決められており、見た目ですぐに灯油などと区別できるようになっているが、放射線に関してはそのようなことはできない。また、診療における放射線使用の“罨”として、放射線透視下の手技を熱心に長時間行っていると、時間としての放射線被曝量が増えてしまう、あるいは術者の手などが被曝する確率が高くなってしまうということがある。さらに、今回の脊椎外科での被曝と直接関係しないかもしれないが、放射線に関連する画像検査（CTなど）は、放射線の量を増やせば容易にコントラストの高い、より良好な画像を得ることが可能になる側面がある。もちろん現在では、そのようなことは医学的にも社会的にも許容できるものではないが、過去には頻繁なCT撮像や長時間の透視下操作で脱毛や皮膚炎をきたした報告も複数ある。現状、放射線を用いる医療機器では、最低限の被曝で済むような制御がされているのが一般的であるが、それでもゼロにはできない。2019年の医療法の改正で、CTや血管造影検査に用いる透視装置には、「放射線診療を受ける者の当該放射線による被ばく線量の管理及び記録その他の診療用放射線の安全利用を目的とした改善のための方策を講じること」が義務づけられており、今後は個々の患者さんがどれだけ医療被曝を受けたかは、記録してはつきり確認できるようになる。

ただし、診療に集中したいという希望からは、理想的には術者および医療スタッフが意識することなく、自動的に放射線被曝を低減あるいは避けることができるようなシステムの構築がさらに進むことが理想的と考える。

（堀 正明）

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 36 No. 8
(2023 年 9 月 22 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,500 円＋税）
（配送料別）

年ぎめ予約購読料 33,300 円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033
東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル
TEL 03-3816-7796
FAX 03-3816-7756
URL <http://www.miwapubl.com/>
（担当：山岸）

印刷所／三報社印刷株式会社
TEL 03-3637-0005

広告申込所／
（株）文栄社
TEL 03-3814-8541
（株）ハイブリッジエージェンシー
TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2023,
Printed in Japan

3COPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。